

広島県中小企業団体中央会 2022年1月分情報連絡一覧表

※本調査は2月の見通しについても調査をしている関係上、特に新型コロナウイルスの世界的感染拡大に対する2月以降のコメントも掲載しています。

(食料品)

●食料品

広島県東部菓子商工業協同組合

1月は、売上が後半に伸びてきて、前年と比べて6%程度増加となった。

新型コロナウイルス感染者数が高止まりしている影響で、また売れなくなることも予想される。

原材料および資材、人件費をはじめ経費が高くなって収益を圧迫している。

中国醤油醸造協同組合

1月の出荷量は前月比31.8%減少、前年同月比4.3%増加となり、売上高は前月比33.6%減少、前年同月比5.6%増加となった。

(繊維・同製品)

●繊維工業

(一財) 広島県織物工業会

まん延防止等重点措置の延長に伴い、消費は上向きにならず、低位で安定している。それに反して、原油高・綿花高等により、コストアップとなっている。今後も非常に厳しい状況が続くだろう。

原料高による仕入れコストアップが損益に影響してくるので、非常に厳しくなることが予想される。いかに販売増加につなげていくかがポイントになる。

広島アパテック協同組合

前月と大きな変化は無いが、縫製業などは他企業の人員減少の影響により、その分注文数量が増えてきており、当該企業も人員不足から注文がこなせきれずに受注量をセーブしなければならない状況にある。

見通しは依然としてよくない。技能実習生を受け入れている事業者（主に縫製）は人員不足が顕在化してきており、企業によっては生産数量に影響が出ている。

(木材・木製品)

●木材・木製品

福山木材協同組合

材料不足で受注がとれないが、何とかもちこたえている。

先行きは依然、不透明である。

広島県木材協同組合連合会

<全国>

・令和3年12月の全国新設住宅着工戸数は68,393戸で前年同月比4.2%増加

・季節調整済年率換算値では838千戸で前月比1.5%減少

・利用関係別では、持家は22,731戸で前年同月比0.4%減少、貸家は25,222戸で同3.3%増加

・分譲住宅は、19,927戸で前年同月比13.1%増加、また木造住宅は40,860戸で同1.6%増加

全体の住宅着工動向は、前年同月比10カ月連続の増加となったが、令和3年2月以来10カ月振りの7万戸割れであった。コロナ禍の物流混乱等で資材全面高となったウッドショックの収束は不透明で、木材価格は依然として高値水準にあり、今後の動向を注視していく必要がある。

<広島>

・12月の着工戸数は1,818戸で、対前年同月比11.0%増加、うち持家は459戸で同8.0%増加、貸家は725戸で同12.8%増加、分譲は617戸で同8.4%増加と、県全体の住宅着工動向は9カ月連続の増加となった

・地域別では広島市が987戸で前年同月比30.4%増加、廿日市市は68戸で同51.1%増加、呉市は49戸で同36.1%増加の一方、福山市は311戸で同6.0%減少、東広島市は188戸で同9.6%減少と地域間で差が見られる

ウッドショックによる木材の品薄はほぼ鎮静化し、プレカットの受注も堅調に推移しているが、住宅ローン減税の駆け込み需要の反動や、針葉樹合板・住宅設備機器の品薄、職人不足などで今後の受注減を懸念する声や、業者間の格差の拡大、来期の業況悪化を心配する企業もあり、引き続き今後の需給動向を注視していく必要がある。

ひろしま木材事業協同組合

国産材の県内原木について、1月上旬は積雪が断続的にあり、出材に影響が出た素材生産業者が見受けられた。スギは、合板工場向けの需要が更に拡大し、供給量も限られていることから、市場の価格が高騰しつつある。ヒノキは、相場の下げ傾向が続いていたものの、ようやく踊り場の局面に至ったと思われる。

昨年夏の相場からは随分値下がりしたものの、未だ従前よりも高い価格帯を推移しており、素材生産業者の出材意欲は高い。

県内プレカット工場各社は、12月分のずれ込みで前半は忙しかったが、その後、仕事が減少した。合板不足は続いており、プレカット工場の稼働は綱渡りとなっている。2月・3月前半分の見積りは減っており、建売物件も勢いがなくなってきた。

(印刷)

●出版・印刷・同関連

広島県印刷工業組合

1月に新年互例会を開催することができ、面と向かうことが人との出会いで大切であると再認識した。久しく会っていなかった業界の方とも顔を合わせた。

(化学・ゴム)

●工業用ゴム製品

中国ゴム工業協同組合

前月から状況は変わっていない。

新型コロナウイルス(オミクロン株)感染急拡大の煽りを受けてはいるが、生産回復後の挽回受注を踏まえて、製品の作り込みも実施している。原材料費高騰などで損益分岐点が悪化している今こそ体質改善せねばならない。新5Sを皆が意識して共創に取り組んでいきたい。

●プラスチック製品製造業

広島県プラスチック工業会

全体的に、設備操業度が上昇傾向にあるが、海外からの部品調達状況が懸念される。

人手不足で、残業や休日出勤等で対応している。

原材料等の価格高騰で、採算性は悪くなっている。

(窯業・土石製品)

●窯業・土石製品

広島地区生コンクリート協同組合

出荷状況

R4年1月 2,096m³ (対前年比19.54%減少)

R3年12月 2,884m³

R3年1月 2,605m³

(鉄鋼・金属製品)

●鉄鋼業

靱鉄鋼協同組合連合会

団地内で休業や廃業により3年近く稼働していなかった区画の売買がある様子だ。少しでも当団地の活性化に繋がることを期待する。

(一般機器)

●一般機械器具

広島県東部機械金属工業協同組合

今月の売上は、前月比30%増加、前年同月比80%増加となった。

年末納品予定分が今月にずれ込んだもので、3月期末を控え特段の状況変化ではない。あわせてスポット受注も売上の増加に寄与している。

学校での新型コロナウイルス陽性者の多発は、従業員の自宅待機の増加という形で現場ひいては経営に影響を及ぼしている。

リョービ関連工業協同組合

景況感は上向きつつあったが、オミクロン株の猛威や原材料、原油の高騰で再び低下する恐れもあり、先行きは不透明である。

(電気機器)

●電気機械器具

広島県東部機械金属工業協同組合(電気機械器具)

今月の売上は前月比10%減少、前年同月比5%増加となった。

電子部品の仕入れに困難な状況が続いている。そのため、車載関係の売上状況にもマイナスの影響が出ている。

発注している生産設備が入らないため、設備投資計画が遅延気味である。

(輸送用機器)

●輸送用機械器具(自動車)

八本松工業団地協同組合

自動車向け金型の収益状況が悪化している。

鉄骨業界の仕事量は、不安定な状態が続いている。

材料、購入品価格の値上がりにより、品不足が続いており、受注価格は変わらないため、収益が悪くなっている。

今後の景況も不安定で推移すると思われる。

東友会協同組合

組合員の業況は、ビジネス依存度が高い主要顧客(マツダ)の業況(生産台数)に比例している。

半導体の影響は一旦はほぼ解消されたが、コロナ感染の再拡大で一部の部品の供給が不安定である。今後は、大幅な減産はないと思われるが、部分的な供給リスクはある。今春立ち上げの新型の大型SUVの生産準備を、人的資

源も含めて継続中である。

・1月の国内自動車販売台数は全需が330千台、前年同月比14.2%減少と7ヶ月連続での前年割れとなった。登録車も同12.5%減少と5ヶ月連続で前年割れ、軽自動車も同17.1%減少と8ヶ月連続で前年割れとなった。マツダ車は同16.5%減少と1ヶ月ぶりの前年割れとなった。

・アメリカの12月の全需は1,222千台で、前年同月比24.6%減少と5ヶ月連続で前年割れ。マツダは同38.0%減少と、前年同月を4ヶ月連続で前年を下回る結果となった。

・欧州の12月の全需は1,131千台で、前年同月比23.0%減少と6ヶ月連続で前年割れ。マツダ車は、同34.0%減少と前年同月を4ヶ月連続で前年を下回った。

・中国の12月の全需は2,279千台で、前年同月比19.5%減少と9ヶ月連続で前年割れ。マツダ車は同36.1%減少と9ヶ月連続で前年割れとなった。

これまでの半導体不足の影響による車両供給の滞りが継続しており、マツダ車の12月の海外販売は、すべての地域でマイナスとなり、75.6千台、前年同月比32.8%減少と5ヶ月連続で前年割れとなった。

・マツダ車の12月の輸出台数は、11月からの生産増加で前年比14.4%増加と6ヶ月ぶりに前年超えとなった。

・マツダ車の国内生産台数は、前年同月比2.4%減少と新型コロナウイルスの影響での供給不安が部分的に続き、12月は前年比で若干マイナスだが、来期に向けては回復方向にある。

●輸送用機械器具（造船）

中国地区造船協議会

県内、2500総トン以上の令和3年12月の船舶建造許可実績は2隻、78,100総トンであった。（前月5隻198,980総トン。前年同月4隻、355,000総トン。）

なお、内訳は輸出船が2隻で貨物船であった。

（一社）中国小型船舶工業会

中小造船業については、前月と大きな変化は無かった。

（卸売業）

●卸売業（総合）

協同組合広島総合卸センター

・全般的に輸送コスト上昇の販売価格転嫁に関する交渉は進捗している。一方仕入コスト上昇に伴う価格交渉はこれから着手する企業が多い

・家具等耐久消費財を中心にコロナ禍で堅調であった巣籠もり関連需要の反転下落が見られ始めている。

・新型コロナウイルスの影響の下、金融機関との交渉は資金調達（既存借入返済リスクジュール含む）がメインであったが、景気回復が見込まれる中、増加した金融債務の返済プラン（見直し）と設備投資を織込んだ事業計画をベースとする交渉に移行しつつある。

●卸売業（生鮮）

広島水産物仲卸協同組合

新型コロナウイルス感染拡大の影響が大きい。

●卸売業（電設資材）

広島県電設資材卸業協同組合

住宅着工は持ち家を中心に順調に推移しているが、部材供給不足による商品調達の見通しが立たず、市場の混乱が継続している状況である。

●卸売業（家具）

リビズ株式会社

正月セールの影響で前月と比べると良好であったが、今後の見通しは悪い。

海上運賃・部材の高騰、また海外商品の入荷遅れが発生している。

●卸売業（畳・敷物）

広島県藁製品商業協同組合

新年になり、畳表の製織に力が入る時期だが、受注の減少、出張営業の自粛により取扱いは伸び悩んでいる。

1月のびんご表は前年同月比280.7%増加、累計では2.9%減少と若干の持ち直しがあつた。一方、中国産では前年同月比1.5%減少で、累計対比では19.0%増加となり前年を上回っているが、中国の春節、オリンピック等による生産停止など生産量の減少が懸念される。

また、オミクロン株による経済活動の影響もあり、取扱いの伸長が望めず、一刻も早い新型コロナウイルス感染拡大の終息が待たれる。

（小売業）

●各種商品小売業

広島生鮮三品連絡協議会

中央市場1月の取扱高は、水産部が前年比30%減少、青果部は前年比10%減少と大幅な減少で推移した。特に納品専門業者は前年比70%減少と落ち込み、事業継続が厳しくなってきた。

年明け早々から新型コロナウイルス感染症対策“まん延防止等重点措置”が始まり、今回は飲食店で酒類提供が禁止された為、ほぼ全ての飲食店が休業し、水産物や青果物の流通にも多大な影響が出ている。

養殖魚を中心に鮮魚の値上がりが続いており、一般消費者向け販売も収益が悪くなってきた。

食品の追加値上げが続き、トレイ等梱包材や燃料代（輸送コスト）の値上げなど収益率下落の要因が重なるため、収益力の向上が大きな課題となってきた。

青果物の生産現場に外国人労働者が不足していることから、作付けや収穫時に影響が出て、生産高が減少している。飲食業界から需要が減少している時はバランスが取れているが、コロナが落ち着き、飲食業界が回復すると、青果物が徐々に高騰することが予想される。

協同組合三次ショッピングセンター

昨年は新型コロナウイルスの影響で帰省客が少なく、特にピークである正月営業期間の売上が非常に悪かったが、今年は客数、売上ともに伸びていた。

1月下旬から2月にかけては、まん延防止による飲食店休業と不要不急の外出抑制による影響でアミューズメント施設が売上不振であった。経費面では燃料費の高騰がマイナス要素となってきている。

今季は降雪が多く、メイン客層である高齢者の来店に影響が生じている。

●家庭用電気機械器具小売

広島県電器商業組合

今月の販売実績は前年同月比8%減少であった。

商品別では、薄型テレビ同6%減少、DVD同35%減少、冷蔵庫同11%増加、洗濯機同5%減少、IHクッキングヒーター同5%減少、エコキュート同61%減少、エアコン同13%減少、炊飯器同9%減少、空気清浄機同43%減少となった。

新型コロナウイルスの感染状況が悪化し「まん延防止特別措置適用」で営業活動が制限された。イベント催事も中止となった。依然として一部商品（特に、エコキュート・温水器関連）の商品供給面は改善の目処がたっていない。

●その他の小売業（燃料）

広島県石油商業組合

歴史的な原油価格の高騰に替も影響し、販売不振が続いている。その上、新型コロナウイルス感染症の急激な感染拡大で、人や物の移動も減っているように思われる。

（商店街）

●商店街（各種商品小売業）

呉本通商店街振興組合

広島県にまん延防止等重点措置が適用されたことに伴い、飲食店を中心に休業・時短営業に移行した店が増えている。ただし、前回の緊急事態宣言下と違って、今回は広島県感染症拡大防止協力支援金が休業と時短営業とが同額であるため、前回に比べて時短営業を選んだ店（特に食堂。ただし、飲み屋街はほとんど休業）が少なからずあった。呉市内でも感染者（高齢者から児童まで）が連日100人を超える日が続く、商店街の人通りも夜間には閑散という状況にある。

広島金座街商店街振興組合

再度の新型コロナウイルスまん延防止措置により、人出が減少したことで売上の落ち込みが大きい。

（サービス業）

●自動車整備業

広島市自動車整備団地協同組合

車検台数は、前月比22.6%減少、前年比4.0%減少。

車検場収入は、前月比20.4%減少、前年比2.0%減少。

重量税・登録印紙の売上は、前月比16.9%減少、前年比0.6%増加。

●広告業

広島県広告美術協同組合連合会

まん延防止措置の影響であるかは不明だが、稼働状況は悪い。

引き続き下降すると思われる。

●警備業

広島県警備業協同組合

新型コロナウイルス感染拡大の影響で仕事の延期・中止が出ている。

（建設業）

●工事業

福山地区電気工事業協同組合

1月分の工事受付件数は、前月比14.9%減少、前年同月比37.7%減少となった。

広島県室内装飾事業協同組合

カーテン、敷物、壁装クロス等の3品目合計について、前年同月比22.3%減少、前年累計比も29.6%減少であったが、前月比34.0%増加となり、非常に低調であった12月と比べるとやや回復した。しかし、年度累計比では前年比30%程度減少となりそうである。やはり物件が少ないことが要因と思われる。

内装材料費の相次ぐ値上げ、工賃の頭打ちにより組合員にとっては暫く厳しい状況が続く。

（運輸業）

●道路貨物運送業

松永地区トラック事業協同組合

1月の売上高は、前月比、前年同月比ともに大きな変化はなかった。

新型コロナウイルス感染が急拡大しているなか、貨物量については今のところ大きな影響は出ていないが、一昨年の感染拡大前の水準には戻っていない。貨物量もさることながら問題は、軽油価格とディーゼル車の稼働に不可欠な尿素水（アドブルー）である。原料となる尿素の国内生産が足りず、供給不足のため、未だに値上がりしている。軽油とアドブルーがどちらも値上がりして運送業者は、かなり苦しい立場が続いている。

広島東部トラック運送事業協同組合

1月の荷動きは、新型コロナウイルス(オミクロン株)感染者数が増大した影響もあり、全体的に悪かった。

自動車関連は、半導体不足の影響もあったが、前年同月と比べると荷動きは活発であった。

1月の売上高は、数量は減少したものの、単価が高騰したことにより増大したが、軽油価格の大幅上昇による影響が大きく、収益状況は悪化した。

軽油価格は、地政学リスクの高まりと新型コロナウイルス(オミクロン株)の感染拡大における重症化率の低さなどから需要懸念が後退したため、高騰した。

中国カーゴ軽運送協同組合

組合を立ち上げて22年目であるが、今年、来年が正念場である。コロナ禍の状況はとても厳しいが、支援金(助成金)を活用して今後につなげていきたい。

●水運業

全国内航タンカー海運組合中国支部

船員の高齢化が進み、若年船員の育成が進まないなど、船員不足の状況が続いている。

また、運賃・用船料の改善が依然として見られない状況である。

(その他)

●不動産業

広島県不動産評価システム協同組合

前月比は公的評価作業及びコロナ禍による県外評価作業減少の影響で、一般評価作業が減少した分、売上高等が減少し、収益等も悪化した。

前年同月は特に変化なしであった。

コロナ禍により県外への出張作業の先行きが不透明である。

2月からは公的評価作業も一段落したため、年度末に向けて一般評価作業が増えるものと思われる。

度重なるコロナ禍の時短要請で流川・薬研堀歓楽街の飲食店業界は、小規模店舗は休業補助金で一息ついているが、中規模業者、チェーン店は営業を行っており、客足はいま一つで依然厳しい業況が続いている。

不動産市場については、コロナ禍の影響による先行き不透明感はあるものの、低金利政策等により戸建て需要は堅調に推移している。しかし、依然として建築素地不足状況が続いている。又、建設業者、建売業者、リフォーム業者等は依然として建築資材の納品遅延（半導体不足による給湯設備・台所設備・トイレ設備等の製品不足）により、完成工事の遅れが出ている。